

# ボラと白い嘘



(エジプト・アレクサンドリア、2022年8月撮影)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所  
太田（塚田）絵里奈（前近代アラブ史）

留学時代にお世話になったルームメイトの母親に10年ぶりに再会した。エジプトでは貴重なシーフードを味わえるアレクサンドリア。「あなたが来るから、魚料理を頼んでおいたわよ」と言われて出てきたのは焦げ焦げの「ブーリー」、すなわちボラである。

恐る恐る焦げをはがして手づかみで口に運ぶと、なんとも生臭い。ボラは砂泥ごと餌を食べるといふ。つまり生息域の海洋汚染を如実に反映しているのだ。

エジプト料理は大味だと言われる。あまり写真映えもしないが、味は悪くない。そんな思いを見事打ち砕いたボラを前に硬直していると、母から「お味はいかが？」

満面の笑みで「ガミール（美味です）」。これは母のもてなしに応える、「白い嘘（キズブ・アブヤド）」なのだと言いに聞かせた。